

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標5_人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ】

施策 5-4_近代化産業遺産の保存活用・整備の充実

	基本計画	事業番号	細事業名称
5-04-01	別子銅山近代化産業遺産の保存活用・整備の推進	02257_01	近代化産業遺産保存活用事業
5-04-01	別子銅山近代化産業遺産の保存活用・整備の推進	02509_01	端出場水力発電所整備事業
5-04-01	別子銅山近代化産業遺産の保存活用・整備の推進	02580_01	山田社宅整備事業
5-04-02	別子銅山の歴史の伝承・情報発信	02257_02	近代化産業遺産情報発信事業
5-04-02	別子銅山の歴史の伝承・情報発信	10316_01	広瀬歴史記念館充実事業
5-04-03	多喜浜塩田文化の保存・継承	10543_01	多喜浜塩のまちづくり事業補助金

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報		事後評価	2021	02257_01		
事業名(行目名称)	近代化産業遺産まちづくり推進費	細事業名	近代化産業遺産保存活用事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	近代化産業遺産の保存活用・整備の充実		
	基本計画	別子銅山近代化産業遺産の保存活用・整備の推進	担当課	別子銅山文化遺産課		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	保存活用対象物件	数値	7		
	手段(どうやって)	保存活用計画が策定されている施設については、引き続き整備を進め、公開までの期間、植栽の手入れ等適正な維持管理を行う。また、他の代表的な別子銅山近代化産業遺産については、所有者である住友グループの協力が不可欠なため、協議を進める。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	登録有形文化財旧端出場水力発電所及び住友山田社宅については、調査報告書や保存活用計画に基づき、基幹的な拠点として整備し保存活用する。他の代表的な別子銅山近代化産業遺産についても保存整備調査を行い、「登録有形文化財」等を目指す。				
III 投入費用						
実施年度	令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
		当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費	8,906	10,002	10,002	9,258	住友山田社宅等借地料4,566千円、除草剪定等業務委託料4,530千円、全国近代化遺産活用連絡協議会等総会旅費337千円、需用費(光熱水費、消耗品費、施設修繕等)500千円など	
財源	県・国支出金	0	0	0		
	地方債		0	0		
	その他	338	338	337		
	一般財源	8,568	9,664	9,664	8,921	
IV 指標						
成果指標名(計算式)		令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
山田社宅等利用者数	目標値	400	400	400	800	800
	実績	610	244	352	582	—
V 事中評価						
評価視点	妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等	事業の方向	現状のまま維持する				
住友山田社宅6棟エリアの維持管理について、老朽化に伴う緊急補修箇所、樹木剪定、除草等の維持管理経費、借地料などが継続的に見込まれる。緊急度に応じて計画的な補修が必要である。						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)	予算の方向	現状維持				
緊急補修箇所の施設修繕費、除草等委託業務について現状維持として要望する。2棟は仮オープンを開始しており景観など周辺環境に配慮した適正な維持管理を推進する。そのほか借地料、光熱水費、清掃等管理用品など実績見込みによる予算要望を行う。						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
令和3年末から仮オープンとして毎週水・日曜日(9:30~11:30)の限定公開を実施している。新型コロナウイルスの影響で臨時休館が続き、利用者数は目標値の約75%となったが、2時間の限定公開の中で1日平均来場者数は14人であり、また、見学や団体ツアーの問い合わせが多いことから今後も利用者数の増加が見込まれる。今後も国の登録有形文化財である旧端出場水力発電所の維持管理及び住友山田社宅の樹木剪定等、環境整備について、施設の適正な維持管理や周辺環境への配慮のため、継続的な管理経費が必要である。						
事中評価	作成担当者	濱岡 里枝	最終評価責任者	藤田 和久		
事後評価	作成担当者	伊藤 広大	最終評価責任者	藤田 和久		

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	02509_01	
事業名(行目名称)		端出場水力発電所整備事業		細事業名 端出場水力発電所整備事業			
総合 計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策 近代化産業遺産の保存活用・整備の充実			
	基本計画	別子銅山近代化産業遺産の保存活用・整備の推進		担当課 別子銅山文化遺産課			
II 事務事業の実施概要							
事務 事業 内容	対 象(誰・何を)	市内外観光交流人口(マイントピア別子来場者数)			数値	331290	
	手 段 (どうやって)	平成28年度末に策定した保存活用計画にもとづく本体耐震補強工事及び周辺整備等工事の推進					
	目 的 (どんな状態にしたいのか)	登録有形文化財 旧端出場水力発電所の文化財としての保存、一般公開活用					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		421,427	304,612	304,612	175,367	本体耐震補強等工事費125,915千円、周辺整備工事費128,940千円、施工監理委託料24,830千円、展示整備等委託料24,556千円、文化庁調査官ほか招へい旅費、謝礼等350千円など	
財 源	県・国支出金	184,906	144,491	144,491	80,389		
	地方債	166,600	130,000	130,000	72,300		
	その他	69,921	30,121	30,121	22,678		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指 標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
設計、工事件数			目標値	1	1	1	1
			実績	0	1	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
本体耐震補強等工事はおおむねスケジュールどおり、周辺整備工事は、見学デッキ整備等工事を施工中である。展示整備等業務は今年度末の完了予定で、校正作業を進めている。今後も適正なスケジュール管理を行う必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
保存活用計画に基づき整備を推進するため、令和4年度は周辺整備工事として張出歩道(南側)や園路広場整備等の予算要求を行う。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当				
令和3年度には、本体耐震補強工事が竣工し、展示整備等業務も完了した。今後はアクセス階段等の周辺整備工事を進め、国の動向を調査しながら文化庁の補助金確保を図っていく。また、令和4年度末からの一般公開に向けて、管理体制の構築や条例の制定等を進め、活用としてマイントピア別子との連動制を図るため、関係先と協議を進めていく。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	02580_01
事業名(行目名称)		山田社宅整備事業		細事業名 山田社宅整備事業		
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策 近代化産業遺産の保存活用・整備の充実		
	基本計画	別子銅山近代化産業遺産の保存活用・整備の推進		担当課 別子銅山文化遺産課		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子銅山関連施設来場者数			数値	14021
	手段(どうやって)	平成28年度は寄贈予定物件の所有者である住友企業による現況調査及び改修工事調査、平成29年度～30年度にかけて実施した耐震、補修工事費用について市が負担金を支出し整備を行ってきた。令和元年度には保存活用計画を策定、令和2年度は別子鉱業所長社宅及び住友化学幹部社宅の仮オープンに向けた整備工事を行い、年度末から限定公開(毎週水曜日及び日曜日)を開始している。令和3年度は、保存活用計画に基づき、外国人社宅及び共電社宅の公開活用に向けた内部改修及び耐震補強工事に係る実施設計を行う。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	住友企業から寄贈を受けた住友山田社宅について、整備を行うことにより星越地区における産業遺産の後世への継承、郷土愛の醸成を図るとともに、別子銅山産業遺産を活かしたまちづくりに貢献。				
III 投入費用						
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	外国人西・東社宅耐震補強、内部改修設計14,322千円、共電幹部社宅、監査役社宅耐震診断補強設計4,749千円、周辺整備測量設計8,033千円
経費		27,723	27,104	27,104	27,094	
財源	県・国支出金	12,850	13,552	13,552	12,408	
	地方債	11,500	12,100	12,100	11,100	
	その他	0	0	0	300	
一般財源		3,373	1,452	1,452	3,286	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度
設計、工事件数			目標値	0	1	1
			実績	0	1	1
V 事中評価						
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			やや高い
外国人西・東社宅の耐震補強、内部改修、共電幹部・監査役社宅の耐震診断等詳細な調査にもとづき課題整理を行い、改修設計方針の協議を進めていく。また、外国人社宅等の展示活用整備に関する設計案を作成中のため、協議検討を進め方針を固めていく必要がある。						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持			
今年度の実施設計に基づき、外国人社宅耐震補強、内部改修工事及び展示活用整備にかかる経費算定を行い予算要望を行う。						
VI 事後評価						
成果		総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当		
令和3年度は、外国人社宅2棟と共電社宅2棟の耐震改修設計及び周辺整備設計が完了した。別子鉱業所長社宅と住友化学幹部社宅については、令和3年3月末より仮オープンとして限定公開を継続して実施している。今後は、正式オープンに向けて、外国人社宅・共電社宅及び周辺整備を進め、内部の展示関係、また、活用として、総合案内所や売店等の検討を具体的に進めていく。						

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	02257_02		
事業名(行目名称)		近代化産業遺産まちづくり推進費	細事業名	近代化産業遺産情報発信事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	近代化産業遺産の保存活用・整備の充実			
	基本計画	別子銅山の歴史の伝承・情報発信	担当課	別子銅山文化遺産課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内外観光交流人口(マイントピア別子来場者数)	数値	331290			
	手段(どうやって)	平成25年度は大阪パネル展、平成26年度は東京展を実施。平成27年度から別子銅山産業遺産創造塾等を開始。情報発信について、市内外での継続的な取り組みを行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	多くの市民及び市外の人に新居浜市にある近代化産業遺産の価値を正しく認識してもらう。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		124	1,107	1,107	1,037	別子銅山産業遺産創造塾業務委託803千円、パンフレット印刷費219千円 等	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	36	100	100	20		
	一般財源	88	1,007	1,007	1,017		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
資料(マップ作成)		目標値	5000	5000	5000	5000	5000
		実績	6000	0	5000	5000	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
新型コロナウイルス感染状況による影響で一部実施事業の変更が生じているが、パンフレット制作は完了したため、全国イベント等の情報発信で活用を図っている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
別子銅山産業遺産創造塾講座は実績を重ね、今後も一定数の参加が見込まれる。複数年の実績の積み重ねで効果があるため、翌年度も内容精査したうえで予算要求を行い例年どおり各種手段での情報発信が必要である。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
令和3年度は、新型コロナウイルスの影響で令和2年度に実施できなかった別子銅山産業遺産創造塾を実施。一定数の参加者があったことから、今後も継続して実施していく。パンフレットについては、一部のパンフレットの内容を修正し、予定部数通りの発行を行った。また、全国近代化遺産活用連絡協議会を通じて、別子銅山産業遺産の情報発信を行った。今後、令和4年度末からの一般公開を予定している旧端出場水力発電所のパンフレット制作等が必要であり、情報発信事業について、継続的な取り組みが必要である。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	10316_01		
事業名(行目名称)		広瀬歴史記念館充実費		細事業名	広瀬歴史記念館充実事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策	近代化産業遺産の保存活用・整備の充実			
	基本計画	別子銅山の歴史の伝承・情報発信		担当課	旧文化振興課			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民		数値	117,389人			
	手段(どうやって)	調査・研究に基づき、企画展、講座・講演会を開催し、教育普及に努める。企画展開催期間中に記念講演会、記念茶会等を実施することにより、近代化産業遺産及び歴史に対する興味を深める。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	近代化産業遺産に関する資料の調査・収集・研究を進め、企画展や教育活動の普及を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		545	1,813	1,813	1,531	資料輸送展示業務委託料 1,391 関連イベント実施業務委託料 66 印刷製本費 119		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
一般財源		545	1,813	1,813	1,531			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
企画展来場者数			目標値	1500	1000	1500	1500	1500
			実績	2492	1238	1578	1578	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
令和3年3月20日から8月31日※まで、広瀬歴史記念館展示館において、特別企画展「住友山田社宅仮オープン記念 工都新居浜の誕生～別子銅山と住友総理事～」を開催した。新型コロナウイルス感染症予防対策として、令和2年度に引き続き令和3年度についても規模を縮小し、関連イベント(記念講演会、記念茶会等)の実施を見送った。 ※会期を2か月間延長								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
翌年度における新型コロナウイルス感染症を巡る情勢は見通せないものの、コロナ禍以前の規模にて企画展等を開催する予定である。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当					
令和3年3月20日から同年8月31日まで、特別企画展※「住友山田社宅仮オープン記念 工都新居浜の誕生～別子銅山と住友総理事～」を開催した。来場者数は、1,578人であった。 ※新型コロナウイルス感染症予防対策として、前年度に引き続いて規模を縮小し、関連イベント(記念講演会、記念茶会等)の実施を見送った。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	10543_01		
事業名(行目名称)		塩のまちづくり事業費		細事業名	多喜浜塩のまちづくり事業補助金			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策	近代化産業遺産の保存活用・整備の充実			
	基本計画	多喜浜塩田文化の保存・継承		担当課	社会教育課			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	多喜浜校区住民及び市内外の塩文化に関心のある人			数値	3670人		
	手段(どうやって)	①学校敷地内に設置されたミニ流下式塩田「ソルティ多喜浜」への維持・管理 ②多喜浜小学校児童のESDの取り組みへの協力。③市内小学6年生対象のふるさと学習(塩田学習)の実施への協力。④「塩の学習館」を利用した塩づくり体験の実施と多喜浜塩田遺跡巡り等の対応。⑤「ソルティ多喜浜」「塩の学習館」「多喜浜資料展示室」の見学者への対応。⑥塩田かるたを通して地域の子どもたちへの多喜浜塩田の保存継承活動の実施。⑦多喜浜小学校児童を対象とした「塩田讃歌」踊りの普及事業の実施。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	近代産業遺産である塩田の文化を後世に伝えるために、子どもから高齢者まですべての世代が協力し、その発掘を保存伝承を図ること、ふるさとへの誇りと愛着を深める。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	認定補助金 190		
経費		0	190	190	146			
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	0	190	190	146			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
参加者数(延べ人数) (ふるさと学習を含む)			目標値	1000	2000	2000	2000	2000
			実績	1691	536	64	511	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>令和3年度も新型コロナウイルス感染の影響により、例年のように実施できていない状況であるが、感染対策を講じながら、小学生のふるさと学習の受け入れ等を行っている。 本事業は、地域全体での保存・継承が行われており、事業の中心となっているのは高齢者が多く、早急な継承者の育成が必要であることから、PTAを通して継承をしているところだが、今年度は新型コロナウイルス感染予防もあり、今の時点では実施できていない。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>多喜浜塩田の歴史を次世代に伝え続けることは、人と地域の力で豊かな心を育み、つながり、学び合うまちづくりにつながっていくと考えるため本事業を継続する。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設利用中止の設定及び利用者の利用控えに伴い、例年より利用者数は大幅な減少となった。しかしながら、ふるさと学習(8校)への協力、枝条架架替の準備等、できる範囲で活動を実施することで、地域とPTA、子どもたちの絆が深まるとともに、多喜浜塩田文化の継承が図られた。</p>								